

▼甲佐小学校多目的ホールで開催された成果発表会



## 地域で学校の活性化を支援

学校支援地域本部事業成果発表会

2月28日(日) 甲佐小学校多目的ホールで、平成21年度学校支援地域本部事業成果発表会および教育講演会が開催されました。

同事業は、学校と家庭、地域が一体となり、地域全体で学校での教育活動を支えるために、平成20年度から文部科学省が始めたもの。地域住民がボランティアとして学校に関わり、学校の活性化につなげようとする支援活動で、学習の補助や校内の清掃作業、登下校時の交通安全指導、学校行事への参加など

を行います。

本町では、同小(吉見和洋校長205人)が平成20年度から取り組んでいます。

同発表会では、平成21年度における活動内容と成果について、村上邦生コーディネーターが報告。保護者や学校支援ボランティア、区長、民生・児童委員など約90人が参加しました。

また、教育講演会では、九州ルーテル学院大学の大畑誠也客員教授を講師に迎え、「地域で育てる地域の子ども」と題して講演しました。

## 認知症への新たな支え合いを

平成21年度認知症サポート・リーダー養成講座

平成21年度認知症サポート・リーダー養成講座が、昨年10月から2月にかけて5回にわたり開催されました。

同講座は、(社)甲佐町社会福祉協議会(奥名克美会長)の主催。認知症高齢者が増加する中で、地域住民に認知症に対する正しい理解を広め、地域で暮らす認知症の人やその家族が安心して毎日を暮らせるための支援活動

などを行う「認知症サポート・リーダー」を養成し、福祉による地域づくりを目指すことを目的に開催。地域福祉推進員や民生・児童委員などが参加し、66人が講座を修了しました。

講座では、認知症に対する理解やケア方法についての講演や、支え合うためにできることを話し合うグループワークなどを行いました。



▶認知症の人を支え合う活動について話し合ったグループワーク

## 自転車競技で九州大会に出場

田上大貴くん(甲佐中3年・下横田区)

2月12日(金)から14日(日)まで、沖縄県で九州地域自転車競技大会が開催され、田上大貴くん(甲佐中3年・下横田区)が、3種目で上位に入賞しました。

水泳や陸上、トライアスロンなどに取り組んでいた田上くんは、父・敏一さんの勧めで小学5年生から自転車競技を始め、昨年9月から本格的に競技に取り組んでいます。

田上くんは4種目に出場し、中学生の部1キロタイムトライアルで2位、同スクラッチで2位、同ロードレースで5位に入賞しました。

大会を振り返り、「次回出場するときは、もっといい記録を出したい。高校でもしっかり練習して、全国大会で活躍できる選手になりたい」と語りました。



▶九州地域自転車競技大会で、3種目で上位入賞を果たした田上くん

## すべての人が幸せになるために

### 平成21年度甲佐町人権教育講演会

3月6日(土) 町生涯学習センター・ホールで、平成21年度甲佐町人権教育講演会が開催されました。

町教育委員会の主催。「ぬくもりを感じて」と題して、徳島県人権啓発青少年団体連絡協議会「止揚の会」の中倉茂樹さんが講演。約150人が参加しました。

被差別部落出身の中倉さんが



▶結婚差別の実体験を題材にして、差別根絶を強く訴える中倉さん

## 安心安全のための信号機

### 甲佐大橋東側交差点押しボタン式信号機点灯式

3月7日(日) 国道443号の甲佐大橋東側交差点(糸田)で、同交差点押しボタン式信号機点灯式が開催されました。

同交差点は、国道443号と広域農道「マミコウロード」が交わる地点。登下校時などは交通量が多く、通学路として危険性が高いことから、長年にわたる地元からの信号機設置の要望を受けて新設されました。

式典には、町、御船警察署、地域住民および白旗小6年生など約50人が出席。白旗小6年の池田力水くん(中早川区)と東泰成くん(早川区)が「信号機が設置されて安心して道路を渡れます。これからも交通ルールを守ります」と交通安全の誓いを宣言しました。

式典後に信号機が点灯され、児童たちが渡り初めをしました。



▲新設された信号機の点灯式に出席した関係者および白旗小児童

## 南側斜面の空堀を発見

### 平成21年度「陣ノ内館跡」現地説明会



▲平成20年度から5か年計画で実施されている「陣ノ内館跡」発掘調査。平成21年度は館を中心に南北にわたり試掘。

3月20日(土) 豊内の町指定文化財「陣ノ内館跡」で、埋蔵文化財調査に関する平成21年度現地説明会が開催されました。

同説明会は、平成20年度から5か年計画で進められている同史跡の調査状況の説明を目的に、町教育委員会が主催。関係者など約40人が参加しました。

同史跡は免の山に位置し、東西約210m、南北約140mの大きさで、中世の館跡としては、全国的にも類を見ない規模。平成21年度の調査では、館中心の平坦部を南北に試掘。最北

部の試掘坑では、地層の状態から土塁が「上げ土(あげつち)」の伝承のとおり盛り土による造りであることを確認。最南部では、深さ3m、推定延長50m以上にわたる人為的な掘り込みも見つかり、南側の防御のための堀の一部と考えられます。

町教育委員会では、「これまで南側の防備は、急斜面にある階段状の遺構のみと考えられていましたが、空堀と土塁を加えた三重の防備が推定され、かなりの有力者の館跡であったと考えられます」と話しました。